

西会津町消防支援隊 発足から10年

平成21年4月22日、新たな消防ボランティア組織として発足した「西会津町消防支援隊」。その役割は、平日の日中に起きた火災にいち早く対応することでした。発足から10年を迎えた今年、ふるさとの安全を守り続ける「西会津町消防支援隊」に改めて注目します。



消防支援隊とは

「消防団」、「女性消防隊」に次ぐ第3の消防組織である「消防支援隊」は、火災が起きた際、消防団員や消防署員が現場に到着するまでの間、初期消火や避難誘導、安否確認などを行う消防ボランティア組織です。今年で、発足から10年を迎えました。

発足の背景

発足当時、町の消防の中核を担う消防団は、その団員の約8割がサラリーマンで、そのうちの約4割が町外で働いていました。このため、平日の日中に火災が起きた場合、

団員がそろうまでに30分程度時間がかかり、迅速な初期消火を行うことが困難でした。こうした課題を解決するため、当時の消防団幹部とOBによる発起人会が中心となり、初期消防体制の仕組み作りについて、検討が始まりました。

何度も検討を重ねた結果、消防団を補完する新たな消防ボランティア組織の発足が決まりました。その後、隊員を募集したところ、日中を地域で過ごす消防団OBや消防署OBなど、計242名もの町民から応募がありました。そして、平成21年4月22日、念願だった、「西会津町消防支援隊」が誕生しました。

当時、喜多方地方広域消防本部によると、自治体ぐるみでの消防支援隊の発足は、東北初ということでした。

活動内容は

消防支援隊は、その身分としては消防支援ボランティアであるため、報酬はありませんが、町が加入する保険の補

償を受けられるほか、活動用装備品として法被やヘルメット、消防用長靴が貸与されます。

火災時には、消火栓からの初期消火や水利の確保、避難誘導や現場付近の交通整理など、消防団員や消防署員が現場に到着するまでの間の消防支援活動を行います。活動範囲としては、原則居住する区域周辺および大字単位で活動を行います。

そのほか、消防団が実施する夏季機械器具施設点検や秋季消防検閲の模擬火災訓練などにも参加し、技術の向上や維持に努めています。



当時、消防支援隊を組織することになったきっかけは、平日の日中に起きた火災でした。近くに居合わせた消防団OBが、勤めに出ていた消防団員が到着する前に初期消火を行い、被害を最小限に食い止めました。その教訓から、消防団員が到着するまでの初期消防体制作りを検討することとなり、消防支援隊が発足しました。発足当時は地区で隊員数にばらつきがあったため苦労しました。

消防支援隊はボランティア組織であるため、その活動は初期消火などの後方支援に限られますが、それでも消防団員が働いている日中に火災が起きた際は、自分たちが初期消火に貢献できることに消防支援隊としての強みとやりがいを感じています。

発足から10年が経ち、今後は初心に戻り、火災予防の重要性を改めて町民の皆さんに伝えていきたいです。また、隊員数や、なり手が少ない地区もあることから、その確保に努めていきたいです。

インタビュー



西会津町消防支援隊

めぐろ はしめ 目黒 一 隊長 (牛尾)

町消防団の第2分団長を退職後、消防支援隊第2分隊班長(下谷2)を務め、その後第2分隊長を務める。今年4月1日より西会津町消防支援隊隊長に就任。

活躍する消防支援隊

火災時に、初期消火を担う消防支援隊。その本領を発揮した出来事がありました。

発足から間もない5月の日中に起きた物置火災。発生直後から支援隊が近隣住民を指揮し、バケツリレーを行いました。迅速な初期消火により、火は消防団員などが到着するころにはほぼ鎮火し、大事には至りませんでした。消防支援隊の実力が発揮された瞬間でした。

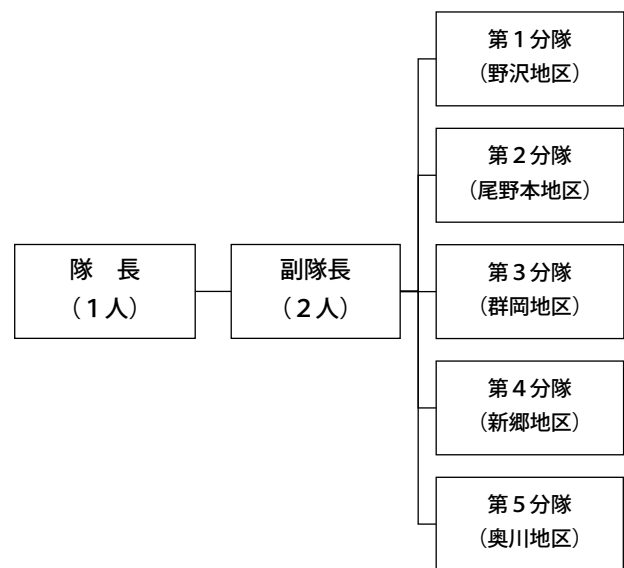
現在も、消火活動の後方支援を行う、頼れる心強い存在として、「西会津町消防支援隊」は町の安全を守り続けています。

消防支援隊員を募集しています!

現在、消防支援隊の隊員を募集しています。

平日の日中に活動に参加できる方であれば、年齢や消防経験の有無は問いません。地域の安全を守る消防活動には多くの町民の皆さんの協力

西会津町消防支援隊 組織図



(隊員 202人 平成 31年 4月 1日時点)

〈問い合わせ先〉

町民税務課町民生活係
☎ 45 | 2 2 1 5

が必要です。まずは、近くの消防支援隊員か町役場町民税務課まで、お気軽にお声掛けください。また、同時に、消防団員および女性消防隊員も随時募集していますので、ご協力をお願いします。

